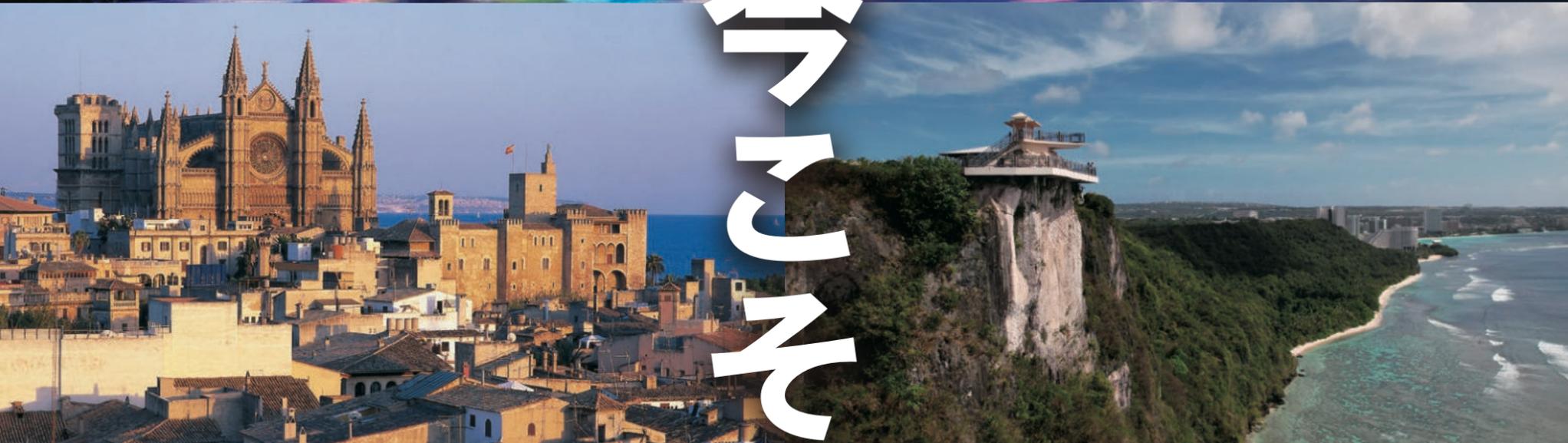


www.jwing.net
mail@jwing.net

「今こそ海外！」特集



アウトバウンド振興は国際感覚向上と航空網強化に不可欠

高橋一郎観光庁長官インタビュー

新型コロナウイルスで大きな打撃を受けた日本の観光復興を目指し、政府は2025年までを期間とした新たな観光立国推進基本計画を策定した。今回の計画では観光立国の持続可能な形での復活に向けて取り組むべき方向性について示された。このうち日本人のアウトバウンドについては新型コロナウイルス感染拡大前の2000万人水準への回復を目指すとした。これを受けて観光庁は今年3月にアウトバウンドの本格的な回復を図るための政策パッケージを策定し具体的な活動に乗り出している。日本の観光政策におけるアウトバウンドの重要性や新たに策定した政策パッケージで取り組んでいく内容などについて観光庁の高橋一郎長官に聞いた。

■日本の観光政策でアウトバウンドの重要性

「日本人の海外旅行・アウトバウンドの推進は日本人の国際感覚の向上や国際相互理解の増進による諸外国との友好関係の深化を図ることが安定的な国際関係の構築につながる。そのためには訪日インバウンドと両輪で拡大していく必要があると考えている。また日本の国際交流は航空ネットワークで支えられている。2地点間の需要バランスが悪いと航空ネットワークの回復が遅れ、コロナ禍からの観光復活やその後のさらなる拡大につながらない。そうした観点からも日本人アウトバウンドの推進は重要であると考えている」

集中的な取り組み講じて、海外旅行需要の遅れ取り戻す

■「アウトバウンドの本格的な回復に向けた政策パッケージ」を発表した

「昨年10月の水際制限の緩和以降、訪日インバウンドについては順調に回復しており、今年6月の訪日外国人訪問客数はコロナ前の2019年と比べて7割程度まで回復している。一方で出国日本人数については5割弱の状況にとどまっており、依然としてアウトバウンドの回復が遅れているのが実情だ。そうしたことから、アウトバウンドの本格的な回復を図るために、政策パッケージを策定して集中的な取り組みを実施しているところだ。」

「今回策定した政策パッケージでは『諸外国との連携体制の強化』『戦略的かつ効果的な取り組みの推進』『安全・安心な旅行環境の整備・青少年交流』の3つの柱を掲

げて、具体的な取り組み内容をまとめた。このうち諸外国との連携体制の構築に関しては24の国・地域を重点デステーションに選定し、現地の観光情報を観光庁のホームページやSNSで発信を行っている。さらに各国・地域の政府観光局との間で総合的かつ一体的な連携スキームを構築することも重要であるとされており、今後は訪日インバウンドのみならず、アウトバウンドも含めた双方向交流を活性化させていくために各国・地域の観光局や政府間での連携を図っていきたく考えている。」

「また、アウトバウンドの増加に向けた潜在性の高い需要層である若年層・シニア層をターゲットに位置付けて、旅行会社や航空会社などと連携した特別キャンペーンを展開していくことに加え、戦略的・効果的な取り組みのためのマーケティング調査なども実施していく。このほか、ツアーセーフティネットによる安全情報の発信強化や参加事業者の拡大、海外教育旅行の実施などを通じた青少年交流の促進にも取り組んでいく。これらのアウトバウンド促進策の実施を通じて、コロナ前に達成した過去最高の出国日本人数である年間2000万人水準への早期回復につなげていきたい。」

『今こそ海外!』を官民共通の旗印に機運情勢高める

■日本旅行業協会（JATA）と共同で「今こそ海外!宣言」を発売した

「コロナ禍の中でアウトバウンド需要の回復が遅れがでていることは様々な要因があると思っている。そうした中で、まずは日本のみならず、海外に行ってみよう、出か

けてみようかという気持ちになってもらうことが重要であると考えている。そのきっかけとして『今こそ海外!』を官民共通の旗印として海外旅行の魅力発信に向けた取り組みを官民一体となってやっていくことで旅行機運を高めていく。」

「またJATAと航空会社、空港会社、各国政府観光局などが連携してパスポート取得費用サポートキャンペーンを行っている。この取り組みに関しては問い合わせも多く順調に推移していると聞いたおり、大変うれしく思っている。さらに10月に大阪で開催されるツーリズムEXPOジャパン2023も海外旅行機運を高めるための重要な場であると考えており、学生の入場料を無料とする取り組みなどを行うことにしている。」

業界関係者と知恵を出し合い、より効果的な政策を

■予算措置も含めて、今後のアウトバウンド振興策についてどのように考えているのか

「アウトバウンド関連の予算については、これまで海外教育旅行促進の観点から質の高い海外教育旅行の造成・周知に向けた取り組みや日本人に安心・安全に海外旅行を楽しんでもらえるよう、海外各国・地域の治安や医療に関する情報発信に対する取り組みについて予算措置を講じてきている。これらの取り組みについては今後も継続して推進していきたい。一方で国内旅行における全国旅行支援のような直接的な需要喚起に対する予算措置については、海外旅行については消費のほとんどが海外で行われているということから、国費を投じることについて一定のハードルがあると考えている。」

「しかし、日本の観光におけるアウトバウンドの意義は極めて重要であり、今後旅行会社や航空会社など業界関係者とともに、どんなことができるのか、何をすべきなのか、お互いに知恵を絞っていき、より効



果的な取り組みを行っていききたい。」

■今年7月に観光庁長官に就任した。改めて抱負を

「日常を離れて知らない場所を訪れたい。旅を通じて新たなものに巡り合いたいという気持ちは人間の根源的な欲求である。観光庁ではこれまでに課長職、次長職を経験し観光行政に携わってきたが、観光が持つ揺るぎないポテンシャルや発展の可能性や底力を信じている。そのような確信のもとで全国各地で観光振興を担っている地域の人々、あるいは観光産業に従事している人々が未来に希望を持って心豊かに一層の誇りを持って取り組んでもらえるように、観光に携わるみなさんの声に耳を傾けながら観光行政に全力を尽くしていきたい。」

「観光需要が本格的に回復しつつある中で、和田（浩一）前長官がコロナ禍からの回復と観光の再始動に向けた歩を進めてきてくれた。まずは観光立国推進基本計画や新時代のインバウンド拡大アクションプランなど、和田前長官のもとで決定した観光立国復活に向けた大きな方針をしっかりと具体的な形にできるよう、関係者とともに取り組んでいきたい。」



「今こそ海外！」特集 | 日本旅行業協会（JATA）

海外旅行者数、来年早いうちに2000万人水準に回復

高橋広行JATA会長インタビュー

日本旅行業協会（JATA）の高橋広行会長は、コンプライアンス問題について「実効性のある再発防止策が不可欠」とし、「さらに踏み込んだ対応策を実行する」方針を示した。また、海外旅行の見直しについて、「2019年比で4割程度の低水準にとどまっており、「今こそ海外！」キャンペーンの強化、継続実施などにより、来年の早いうちに2019年レベルの年間2000万人に回復させる目標を改めて示した。さらに、JATAの重要なテーマとして、(1) SDGsへの対応 (2) 高付加価値化 (3) 双方向交流 (4) 協調と共創の4点を掲げ、「ポストコロナの新しい時代を迎え、JATAとして社会的使命をしっかりと果たしていきたい」と語った。

コンプライアンス問題 実効性ある再発防止策を実施へ

高橋会長は「国や自治体からの受託事業において、JATA会員会社による度重なるコンプライアンス問題が発生した事実を非常に深く深刻に受け止めている。このような事態は決して許されるものではなく、業界全体に対する信頼を大きく損なうものである。JATAでは、コロナ禍で発生した複数のコンプライアンス問題を受け、再発防止に向けた教育や啓発活動を積極的に実施してきたが、残念ながら、これまでの取り組みは不十分であったと言わざるを得ない」と語った。

「さらに踏み込んだ対応策を検討し、実行していく。申すまでもないが、コンプライアンスは経営の根幹に関わる問題であり、すべてに優先するということを業界全体として強く認識し、業界の信頼回復とコンプライアンスレベルの向上に取り組んでいきたい」との考えを示した。

海外旅行需要を今年中に 2019年レベルの6割回復を

海外旅行の回復見直しについて高橋会長は、「目標は今年中に2019年レベルの6割ぐらいまでは回復させたい。5月8日の新型コロナウイルスの分類の見直し以降、各旅行会社の販売動向を聞いても、これまでとは明らかに違う角度で販売が伸びている。また、法人需要が今年の下期から、あるいは来年に掛けて相当な勢いで回復が予想される。この目標は十分可能と思っている」との見解を改めて示した。

「コロナ禍を経て、旅行の予約動向をみると、人々のマインドも和らぎ、旅行業界もそれに合わせた明るさを取り戻しつつある」と

した上で、「国内旅行はコロナ前のほぼ9割方回復し、コロナ前の状態に戻るには時間の問題。訪日インバウンドは6月は200万人を突破し、8割方回復している。これに中国からの旅行者が回復すると一気にコロナ前の状態に戻る」と語った。

「訪日インバウンドは良い方向に進んでいる。これまで重点ターゲットにしてきた欧米の富裕層が増え、欧米の旅行者も今回は円安効果があって相当に消費している。今後心配されるのは中国からの旅行者が戻った時に、人手不足などコロナ禍によって生じた様々な問題でキャパシティがパンクすることで、今から中国マーケットを開放した時のことを前提に様々な対策を取っておかなければならない」と指摘した。

高橋会長は「問題は海外旅行で、まだ4割程度しか回復してない。海外旅行を復活させないと、我々旅行業の真の意味での復活はあり得ない。一刻も早い海外旅行の復活を実現するために、JATAでは『今こそ海外！』キャンペーンを観光庁と一緒に展開し、官民一体となった海外旅行の機運を盛り上げている」と語った。

「今こそ海外！」を官民共同で 国際交流の基本は双方向交流

「今こそ海外！」キャンペーンは、観光庁がツーウェイ・ツーリズムを基本に、アウトバウンド回復に乗り出したことが大きく、とくにパスポート取得費用半額キャンペーンが功を奏した。これを受けて、JATAでは今後第2弾を予定している。

高橋会長は「国際交流の基本は、アウトバウンドとインバウンドの双方向のバランスの取れた二国間交流にある。常々申し上げているが、海外旅行の復活なくして旅行業界の復活はなし。この度、観光庁と共に取り組んでいる『今こそ海外！』キャンペーンを軸とし

たプロモーション展開をさらに強化した上で、今後も継続的に実施し、国内旅行と訪日旅行と海外旅行、この三位一体のバランスの取れたツーリズムの復活を早急を実現していきたい」と述べた。

JATA「持続可能性へ挑戦」 SDGs・高付加価値化・協調と共創

次に、ポストコロナのツーリズム、旅行業界のあり方について、JATAは重要なテーマとして「持続可能性への挑戦」を掲げた。

まず、SDGsへの対応については「世界のツーリズム業界においてはサステナビリティが重要視され、欧米の旅行会社の一部では、SDGsに取り組んでいない日本の旅行会社との取引を避けるといったような動きも出てきている」と世界的な動向を語った。

その上で、「JATAでは初めての『JATA SDGsアワード』を通じて、持続可能な観光に向けた事例を共有することで、業界全体の意識の向上や会員各社の取り組み強化につなげていく。また、観光地の持続可能性、可能な環境保全に向けて、訪問客と受け入れ地域がともに責任を持つレスポンス・ツーリズムの取り組みも推進していく」と述べた。

次に、旅の高付加価値化について「旅行者個人ではなかなかできない新たな体験を付加価値として旅行会社が作り出し、提供し続けることにより、我々の普遍的な存在価値が認識されると考えている」と旅行商品の高付加価値化を推進する。

「それは、同時に収益性の実現にも繋がる。今年9月に北海道でアドベンチャー・ツーリズムのワールドサミットがアジアで初めて開催される。世界中から多くのアドベンチャー・ツーリズムの関係者が集まり、日本が注目される絶好の機会となる」と語った。

「自然、文化の本質をより深く体験、体感することにより、精神的な充足感が高いとされるアドベンチャー・ツーリズムは、訪日旅行のみならず、国内旅行においても高付加価値の提供が可能であり、旅行消費額拡大につながる」と。アドベンチャー・ツーリズムの今後の成長に期待した。

さらに、協調と共創について高橋会長は



「観光産業を取り巻く環境は、年々大きく変化してきている。このような中、さらなる成長あるいは発展を遂げるためには、これまでのような各社による個別的対応から、業界全体で知恵を出し、絞りながら連携する協調・共創型へ移行することが重要と考える。観光産業が共に手を携え、国内旅行、訪日旅行、海外旅行の三位一体での復活を通じて観光立国の実現に貢献していきたい」と述べ、協調と共創の重要性を改めて指摘した。

ツーリズムEXPO大阪・関西 「未来に出会える旅の祭典」

高橋会長は10月26日から29日まで大阪で開催される「ツーリズムEXPOジャパン2023」について、「今年のテーマを『未来に出会える旅の祭典』とし、新たな時代にふさわしい観光商品やサービス、技術、情報などを披露する。観光は日本の成長分野であり、産業の重要な柱となる。その持続的な発展には、SDGsへの対応、高付加価値化、双方向交流、協調と共創が不可欠であり、それらを具現化した姿を来場者に感じ取っていただけるように、高揚感の溢れるイベントにする。合わせて、日本のツーリズムの復活を国内外に発信する機会にしたい」とツーリズムEXPOジャパン2023開催への意気込みを語った。



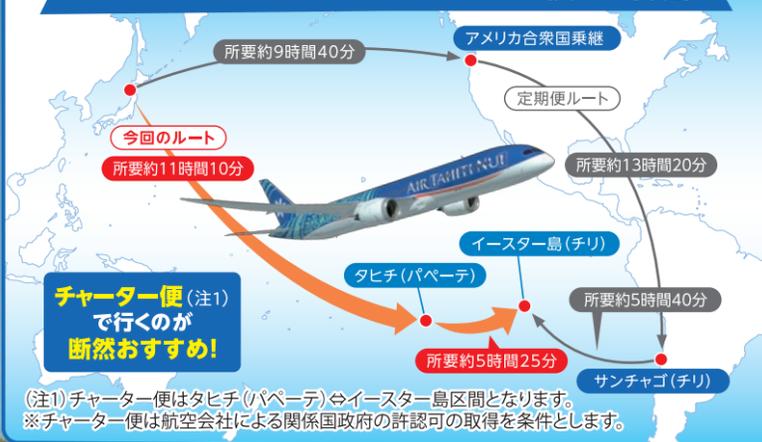
タヒチ（パペーテ）～イースター島間
JTBチャーター便（下記※）で行く絶海の孤島

イースター島 旅物語

南米大陸のチリから約3,700km、ポリネシアの1番近い島からでも約1,850km離れているまさに「絶海の孤島」イースター島。この島でモアイ像が作り始められてから実に長い歴史を誇り、今も島には900体以上のモアイ像が残り、静かに佇んでいます。JTBではタヒチ（パペーテ）～イースター島で1機丸ごとチャーターフライトをご用意。定期便利用よりも短い時間でイースター島訪問が実現します。さらにイースター島公認ガイドによるモアイ特別講座もご用意。一度は訪ねてみたいイースター島、今こそ旅立ちませんか。

会いに来てね!

エア タヒチ ヌイ JTBチャーター便（注1） 利用



詳しくは Webでチェック!

詳しくは Webでチェック!



「今こそ海外!」特集 | 台湾観光局



台湾観光局は、日本市場の回復に向け、プロモーション活動を本格化させている。新イメージキャラクターに女優の川口春奈さんを起用し、20~30代の女性を中心に台湾の魅力...

台湾観光局は、日本政府が5月に「いまこそ海外!宣言」を... 台湾への誘致強化を図ることを目的に同世代に支持されている女優の川口春奈さんをイメージキャラクターに起用...

また、「ビ」を4つ重ねたのは、日本語の「美」の発音に合わせ、「美景(景色の良さ)」「美人(人の良さ)」「美食(食の良さ)」「美好(質の良さ)」という4つの「美」を台湾旅行で感じてほしいという意味も込められている。

撮影は、川口さんの大の親友でありモデル・女優として活躍する岡本あずささんと2人で台北、台中、高雄それぞれの観光スポットを巡る形で実施。川口さんがテンションが上がる様子やワクワクする表情を見せながら、新しい台湾の魅力に「ビビビビ!」と好奇



心を刺激されて引き込まれていく自然体な様子が映し出されている。プロモーションビデオは、15秒の「ビビビビ!台湾総集編」「贅沢フルコース編」「アートな散歩道編」「爽快サイクリング編」「絶景岩登り編」と、30秒の「総集編」「贅沢フルコース+アートな散歩道編」「爽快サイクリング+絶景岩登り編」の全8種類を用意。いずれも今まで日本人にあまり知られていなかった台湾の魅力... 撮影を終え、川口さん自身も「台湾は食べ物が美味しく、人も優しく、エリアごとにいろいろな表情が見られる素敵な場所。今まで知らなかった新しい台湾の魅力をたくさん体験することができました」と、仕事であることを忘れるほど楽しく充実した

撮影だったとの心境を語っている。このプロモーションビデオは今後テレビCMや屋外広告、台湾観光イベント、YouTubeチャンネルやSNSなど多方面への配信を活用しながら、さまざまな広報活動を展開する予定だ。

コロナ前には、日本人が行きたい海外旅行先ランキングにおいて6年連続で1位となった調査もあった台湾。2019年にはおよそ217万人の日本人が台湾を訪れた。台湾観光局は日本の旅行業界との協力体制をさらに強化、いち早く水準まで日本市場を回復させることを第一の目標としながら、台日相互訪問人数の記録である700万人の更新に向け、さらなるマーケティング活動とプロモーション活動を展開していく。

作品・ロケ地紹介

贅沢フルコース編

ご当地グルメから、ミシュラン認定星付きのレストランまで楽しめる美食パラダイス台湾で旅のごほうびグルメに舌鼓。



爽快サイクリング編

かつて台中で運行されていた鉄道の廃線跡を利用した人気のサイクリングロード「后豊自行車道(台中)」でサイクリングを体験。鉄橋やトンネル、台中の田園風景などを通り、変化に富んだ景色を楽しめ、写真映えするスポットも多数ある。



絶景岩登り編

台北市街を一望できる標高約200mの岩山「軍艦岩(台北)」でのハイキングを満喫。



アートな散歩道編

新施設が続々と誕生して新たな景観を作り出している高雄の港湾地区を紹介。「駁二芸術特区(Pier-2アートセンター)や人気急上昇の高雄ライトレール路線のスポットを観光。



そして、「総集編」では各テーマ作品の素材を織り交ぜながら、提灯や彫刻などの装飾が美しく、幻想的な雰囲気を感じる台湾文化を感じる300年前に建てられた3階建ての寺院「三鳳宮(高雄)」や台湾の「新式音響療法体験」などを紹介。

台湾観光局東京事務所所長 鄭憶萍氏

台湾の新しい魅力を短い時間に詰め込んだ新しいプロモーションビデオを通じて、さまざまなチャンネルでの配信や拡散を行い、日本の皆様はまだ知られていない台湾の新たな魅力を発見してもらいたい。日本と距離も心も近い台湾は、初めての方もリピーターの方にも安心して訪れることができる安全なところ。懐かしくて新しい「いくたび、ふたたび台湾」の旅を思う存分、満喫していただきたい。そのためにも、まずはコロナ前の訪台人数まで早く回復できるように、旅行業界の皆様と協力しながらプロモーション活動に力を入れていきたい。



台湾観光局×日本旅行業協会(JATA) 合同天燈上げ特別観光イベント

2023年10月21日

台湾観光局と日本旅行業協会(JATA)が今年10月21日、合同で天燈上げイベントを新北市の小学校の校庭で実施する。22日の追加開催と合わせて、最大1000人の集客を目標に掲げ、無数の天燈(スカイランタン)を飛ばし、幻想的で壮麗な夜空を見上げる特別企画となる。JATAアウトバウンド促進協議会(JOTC)台湾ワーキンググループを中心に10社を超える旅行会社によるイベントを絡めたツアーとして各社オリジナルの旅行商品を造成し、順次募集を開始している。



台湾ランタンフェスティバル

2024年2月24日~、2025年2月12日~

2024年の台湾ランタンフェスティバルは、築城400周年を迎える台南市の安平エリアと台湾高速鉄道の台南駅特定区の2つをメインエリアに2月24日より開催する。400年続く台南の歴史と文化、現代と未来、グリーンエネルギー、伝統とクリエイティブなどの要素を融合させ、台湾ランタンフェスティバルを通して全台湾、そして全世界に向けて台南市をアピールしたいとしている。2025年は桃園市中壢運動公園で2月12日からの開催が予定されている。



エージェントサポートプログラム

いくたび、ふたたび台湾 台湾ツアー企画協賛

昨年10月の渡航再開後から各社の主催旅行商品造成の早期多様化を支援したプログラムとして企画。(1)ワクワク感謝の旅、(2)天燈/スカイランタン祈福の旅、(3)路-鉄道の旅、(4)新規開発旅行商品の4つのカテゴリーに分類したツアー企画へのサポートを実施。 ※いずれも2023年12月31日出発分までが対象。



団体ツアー旅行誘致サポートプログラム

台湾の現地旅行会社を通じて手配委託する観光客で構成する、4名以上で2泊3日以上以上の旅行に対するサポート企画。現地旅行社を通じて台湾観光局に事前申請を行う。

Table with columns for group size and support amount.

上記の成金は現地旅行社とのシェア分配で承認を受ける

インセンティブツアー/報奨旅行誘致サポートプログラム

Table with columns for group size, support amount, and repeat booking.

＜補助金対象＞文化アトラクション、歴史文化施設見学、歓迎幕

＜補助金対象＞文化アトラクション、台湾文化定期公演、歴史文化施設見学、歓迎幕、宿泊、食事、会場費 ほか

実施対象旅行期間：2024年12月31日迄に完了

地方チャーター誘致助成プログラム

チャーター便を運航する場合、1機あたりに規定の金額を助成する。桃園空港利用は最大85万円、桃園空港および台北松山空港以外(恆春、花蓮、台東を除く)を利用する場合は最大150万円、恆春空港利用の場合は最大17万5000台湾ドル、花蓮空港、台東空港利用の場合は最大38万5000台湾ドルもしくは137万5000円を助成する。

クルーズ客船誘致助成プログラム

外国籍および大陸籍大型定期客船1隻あたりに規定の金額を助成するプログラム。台湾での停泊が12時間以上の場合、1航海あたり最高1万5000米ドルを助成し、台湾での停泊が12時間以内の場合、1航海あたり最高7500米ドルを助成する。

JATAによる「今こそ海外!」プロモーションとの連携

ジョイントプロモーション

◇応援投稿キャンペーン

JATAが実施する旅行先の写真とコメントを投稿してもらい、投稿者の中から抽選で商品やサービスをプレゼントする企画を3回に分けて展開。台湾観光局はこのキャンペーンに参加し、「また台湾を訪れてほしい」という思いから、台湾再訪旅行を提供する。

さらに、夏休みシーズンとなる2回目の展開では、台湾観光局単独によるWチャンスキャンペーンとして再訪旅行のほかに、ホテル宿泊券やトラベルバッグなどのプレゼントも追加して投稿キャンペーンの援護PRも展開している。

◇夏旅Wキャンペーン

旅ナカと旅アトに関する特典や商品が当たるキャンペーンで、台湾観光局は旅行中に台湾各地で活用できる割引クーポンを提供。ショッピングや食事の際に特典が受けられる。

◇パスポート取得費用サポート

JATAが夏休み期間の海外旅行を後押しするため、パスポートの新規取得や更新を行う人を対象に、抽選で3000人に8000円の電子ギフトをプレゼントするキャンペーン。台湾観光局は、台湾旅行が確定した人の中から抽選で500人にパスポート取得費用の半額をサポートする。



Taiwan 台湾観光局

公式ホームページ https://jp.taiwan.net.tw/ いくたび、ふたたび台湾ホームページ https://go-taiwan.net/ikutabi/



「今こそ海外!」特集 | デルタ航空

羽田から米国へ、充実のネットワーク

デルタ航空

デルタ航空の東京発フライトは、すべて利便性の高い羽田空港の発着。
羽田から米国5都市へノンストップ便を運航、全米各地に乗り継げる充実のネットワークを誇る。



すべてのフライトを利便性の高い羽田空港に集約

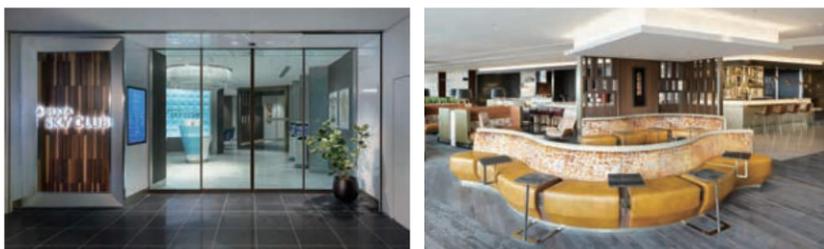


デルタ航空の東京発着フライトは、すべて都心からのアクセスが至便な羽田空港を利用。羽田から米国本土5都市へフライトを運航、北米各地だけでなく、中米、カリブ海、南米各地へスムーズに乗り継ぐことができる。同社では引き続き需要動向に合わせ、より利便性の高いネットワークを提供していく。



デルタ航空のフラッグシップ機(エアバスA350-900型機)

米国航空会社で唯一の自社ラウンジ



羽田空港の「デルタ スカイクラブ」は、米国の航空会社で唯一の自社ラウンジとして2022年にオープン。総座席数230席、延床面積867㎡の広々とした空間で、作り立ての食事が味わえるビュッフェコーナーや目の前で調理するヌードルバー、フルサービスのバーカウンター、シャワールーム(5室)、ワークブースなど設備が充実。ほぼ全座席に電源を備え、高速Wi-Fiで出発前のオンライン会議など、ビジネス対応も万全だ。

進むハブ空港の施設拡充、より便利、快適に

ロサンゼルス Los Angeles

デルタ航空のフライトが発着するターミナル2と3の改装プロジェクトが進行中。新たに「デルタ・ワン」専用チェックイン・エリア(写真)が誕生したほか、「デルタ スカイクラブ」の座席を100席増設、国際線ターミナルへの連絡通路は8月に開通予定。



ミネアポリス Minneapolis

拡張したGエリアに3つ目の「デルタ スカイクラブ」(写真)がオープン。面積1950㎡と、空港最大のラウンジで、450席以上の座席を提供。一流シェフ監修の地元の味が楽しめるビュッフェも好評。また開放感あふれる全天候型屋外デッキ「スカイデッキ」を新たに設けた。



DELTA Topics

デルタ航空公式 日本語Instagram開設



アメリカ各地の魅力やキャンペーン情報、機内サービスの舞台裏など、スペシャルなコンテンツを提供。ぜひフォローを!

[@deltaairlines_jp](https://www.instagram.com/deltaairlines_jp)

金メダリスト堀米雄斗選手 起用の新広告キャンペーン



デルタ航空のブランド・アンバサダーである堀米雄斗選手を起用した新広告キャンペーンがスタート。プロスケートボーダーとして活躍し、東京オリンピックでは金メダルを獲得した堀米選手が登場する30秒の動画は、羽田ーロサンゼルス線のプロモーションとして、ソーシャルメディアや屋外広告などで展開される。

米国国内線の Wi-Fi接続が無料に!



米国の主要航空会社としては初となる高速Wi-Fiの無料提供を今年2月に開始。マイレージ・プログラム「デルタ スカイマイル」の会員であればすべての乗客が無料で利用できる(その場で会員登録が可能)。地上同様、機内でもストレスなく高速Wi-Fiが利用できる画期的なサービスだ。2024年末までにはすべての国際線やリージョナル航空機にも導入予定。

機内アメニティを一新、 SDGsに配慮



デルタ航空では、自然環境や社会活動、経済活動など、持続可能なSDGsに向

けた取り組みとして、機内アメニティを一新。デルタ・ワンとデルタ・プレミアムセレクトのアメニティ・キットに伝統的な手芸の職人を支えるブランドを採用(写真)。プラスチックを使わず、環境にやさしい天然素材を取り入れている。さらにリサイクルポリエステル製の寝具、生分解性素材を使った食器や竹製のカトラリー、アルミ缶のワインなど、大規模なプラスチック削減に取り組んでいる。

よりプレミアムな体験を。

可動式レッグレストや大型スクリーンを備えたお座席と本格的なお食事。
デルタ航空のプレミアムエコノミー「デルタ・プレミアムセレクト」



デルタ航空はプロサーファー 五十嵐カノア選手をサポートしています。

KEEP CLIMBING



「今こそ海外！」特集 | ブランドUSA

ブランドUSA、日本市場重視の姿勢変わらず CEO初来日、一早い需要回復に強い期待

ブランドUSA社長兼最高経営責任者（CEO）のクリストファー・L・トンブソン氏（写真右）が「ジャパン・セールスミッション」に合わせ初来日。業界メディアとの懇談の場で、「日本はアメリカにとって重要な市場。これまで同様、力を弱めることなく取り組んでいきたい」と強調、引き続き日本市場に注力する姿勢を見せた。日本を含む国際マーケットがコロナ前の2019年レベルまでに回復するのは、2025年になると現地調査機関が予測するなか、トンブソン氏は、「予測よりも一早い段階での回復を目指したい」と述べ、マーケット回復への強い意欲を示した。

国内市場が予想よりも早いペースで回復 日本は「確立された強く信頼性のある」市場

トンブソン氏は、アメリカ国内のマーケットが予測よりも早いペースで回復したことから、マーケットの早期回復に期待を寄せる。コロナ前、日本はアメリカのインバウンド市場において国別で4位、ロングホールでは英国に次ぐ2位の規模を誇る。トンブソン氏は「需要が回復するなか、今後はイギリスを抜いて1位になる潜在性、可能性が日本には充分ある」と指摘した。

日本市場について、トンブソン氏は「確立された市場であり、強く信頼性のある市場」と評価。日本を含むアジアマーケットは、国際マーケット全体と比べ、「為替などの要因もあり、回復のスピードが遅い」傾向にあるが、「忍耐強くアジアの現状を見つめていきたい。日本を含め、アジア市場に関しては手を緩めることなく、これまで同様関わっていきたい」と訴えた。

日本独自の旅行企画コンテスト 「ゴールド・ラッシュ」

今回のセールスミッションは、こうした日本市場への期待の表れのひとつ。また先ごろ発表したアメリカ旅行商品の販促アイデアを募る「ゴールド・ラッシュ：ブランドUSAマーケティング・チャレンジ」は日本独自の取り組みとなる。

人気テレビ番組「¥マネーの虎」からヒントを得た最終プレゼンテーションなど、ユニークな試みを取り入れたコンテストで、グランプリには現金1000万円、学生にもプランを募り、優勝者には現金10万円を進呈する。

トンブソン氏は、「日本は非常に歴史のある市場であり、成功をたくさん重ねてきた市場。さらにクリエイティブな方法でプロ



日本独自で展開する「ゴールド・ラッシュ：ブランドUSAマーケティング・チャレンジ」

モーションができれば、より多くの方々の関心を集めるだろう」と述べ、同企画への期待を寄せた。

日本市場の回復なくして完全回復なし 注目イベント続々、2023年は「スタートの年」

ブランドUSAは、アメリカ合衆国の公式観光促進団体として、日本を含む11の主要市場を中心に、国際マーケットへ向けたマーケティング活動を展開する。トンブソン氏は「11の主要市場は、国際マーケットからの観光客の90%を占める。この主要市場のすべてが回復しない限り、アメリカの旅行ビジネスの完全回復はない」と強調。

なかでも「コロナ前までのレベルにアメリカが戻るために絶対に必要なのが日本市場の回復だ」と語る。日本からアメリカへの訪問者数は、2023年1～5月の累計で、前年同期比358%を記録、国別でナンバーワンの回復率となった。トンブソン氏は「全

体的な回復力はまだ弱い、前年比での伸びは前向きに捉えたい」と述べた。

また今後の展開として、2026年に建国250年、ルート66開通100年、さらにFIFAワールドカップ（サッカー）が開催される予定。2028年にはロサンゼルスでオリンピック／パラリンピック、日本でも2025年に大阪・関西万博が開かれるなど、日米双方で世界的なイベントが続く。

トンブソン氏は「日米で双方向による観光を活性化させようという対話が活発化している」と説明、2023年が「スタートの年になれば」と期待を示した。

持続可能、オーバーツーリズム ブランドUSAとしての取り組み

一方、旅行業界において大きな潮流となっているサステナブルな取り組みについては、「ブランドUSAはストーリーテラーの役割を担う」と語り、アメリカ各地でのサステナブルな取り組みを主要マーケットに伝える点に注力する姿勢を見せた。

また各地で懸念となっているオーバー

ツーリズムに対しては、ブランドUSAの取り組みとして、直行便が飛ぶ「ゲートウェイ都市」を超えた「まだまだ知られていない魅力を秘めた」エリアを、セルフドライブなどを通して提案することで、「旅行者の集中を分散させていく」考えだ。

マーケティングからマネジメントへ 各観光局との信頼関係が重要

トンブソン氏は、DMOの役割についても言及。「ここ10年で、マーケティングからマネジメントに変わってきている。ただ観光客を誘致するのではなく、どの時期に、どの地域に、どういった人々を呼び込むのが適切なのか、上手くマネジメントすることが今後のアメリカにとって重要な戦略になっていくだろう」と語った。

また、マネジメントを進めていく上で

の重要な点として、各地域や州、エリアのDMOとの信頼関係の構築を挙げ、「我々はローカルのところまで入って指示を出して縛ることはしない。各地域や州、エリアレベルは彼らに任せ、我々がストーリーとして語ってきたことが確実に提供されているかどうかをチェックはしない。彼らを信頼することで、相互の信頼関係を築くことができる」と指摘した。



ブランドUSA社長兼最高経営責任者（CEO）のクリストファー・L・トンブソン氏

多彩なライフスタイルを提供できる強み

アメリカの強みについては、「ライフスタイル」を挙げた。「日本の皆様に体験して頂きたいのは、アメリカのライフスタイル。日本でも体験できる部分もあるかもしれないが、例えばポップカルチャーなど、アメリカに行かないと体験できない独自のものは必ずある」とアピール。

さらに「バラエティーに富んだ旅行体験

ができるのも強み。若い人やシニア層など、あらゆる方々にお楽しみいただけるのではないかと考えている」と説明。また年代に限らず、「ラグジュアリーやファミリー、アウトドア、文化体験、心躍る体験など、アメリカはいろいろなものを持っている。自由自在に組み合わせてほしいというメッセージを届けている」と語った。

「ジャパン・セールスミッション」来日 4年ぶり、過去最大36団体参加

ブランドUSAは、4年ぶりとなる「ジャパン・セールスミッション」を実施、過去最高となる36団体が参加した。トンブソンCEOは、「日本市場がいかに重要と捉えているかの表れ」と強調。このうちB2Bセミナーでは、ミッション参加団体がそれぞれプレゼンテーションで最新情報を紹介した。



旅行業界向けウェブサイトを紹介するブランドUSAグローバルトレード開発ディレクターのスージー・シェパード氏

セミナー冒頭、ブランドUSAのプレゼンテーションでは、旅行業界向けのウェブサイトを紹介。アメリカ各州、各地域の観光情報の検索をはじめ、「トリップ・プランナー」機能では、訪れたい場所や期間、人数、旅行のペース、目的などを入力、選択すると、最適な旅程を提案してくれる。

また、動画や画像をダウンロードできるツールキット（要登録）、セルフドライブの旅程を集めた「ロードトリップUSA」といった機能もあり、セルフドライブの旅程検索では、ツールキットへのリンクから旅程に関連する動画や画像のダウンロードができるなど、使いやすさにもこだわった。

各団体のプレゼンテーションでは、最新のアトラクションや旅行素材、イベント、ホテルのオープン情報などについて言及。また新しいマーケットとして日本マーケットに期待を寄せる初参加の団体や、需要回復へ向け、日本マーケットに注力する団体、さらにMICEや教育旅行、視察旅行の提案などが目立った。

セールスミッションでは、B2Bセミナーのほか、個別の商談会も実施した。なお、今回参加した団体は以下の通り（順不同）。

- ▼カリフォルニア観光局
- ▼カリフォルニア科学アカデミー
- ▼OTO開発（ヨセミテ国立公園）
- ▼ザ・グランドホテル・サニーバール&クパチーノ・ホテル

- ▼ロサンゼルス観光局
- ▼シタデル・アウトレット
- ▼グレーター・パームスプリングス観光局
- ▼フェアバンクス観光局
- ▼シアトル観光局
- ▼スノホミッシュ郡（シアトルノースカントリー）観光局
- ▼日本アフリカンアメリカン友好協会
- ▼オレゴン州観光局
- ▼ポートランド観光協会
- ▼ワイオミング州観光局
- ▼シェリダン観光局
- ▼イリノイ州観光局
- ▼シカゴ観光局
- ▼ユタ州観光局
- ▼ソルトレイク観光局
- ▼ラスベガス観光局
- ▼トロピカーナ・ラスベガス・アダプツリー・バイ・ヒルトン
- ▼ヒルトン・ワールドワイド
- ▼ミネソタ州観光局
- ▼ミネアポリス観光局
- ▼メンフィス観光局
- ▼ミシシッピ・リバーカントリーUSA
- ▼ツアーアメリカ社
- ▼テキサス州観光局
- ▼オースティン観光局
- ▼デスティネーションDC
- ▼ハドソンヤード
- ▼ミレニアム・ヒルトン・ニューヨーク・ワン・UN・プラザ
- ▼ロックフェラーセンター
- ▼ディズニー・デスティネーション・インターナショナル・ジャパン
- ▼キシミー観光局
- ▼ユニバーサル・デスティネーションズ・アンド・エクスペリエンシズ
- ▼ブランドUSA



商談会の様子



ブランドUSA旅行業界サイト
traveltrade.gousa.jp

「今こそ海外!」特集 | エア・カナダ/ケベック州観光局

夏のカナダ、ケベック州へ エア・カナダ、成田ーモントリオール線再開

女性18名参加のファミツアーレポート

エア・カナダとケベック州観光局は、6月下旬にファミツアーを実施。夏期スケジュールより運航を再開した成田ーモントリオール線の利用促進、また人気の秋以外の季節のプロモーションや素材開発を目的に、旅行会社スタッフなど18名が参加した。古いフランス文化を色濃く残し、カナダで唯一、州の公用語にフランス語を定めるなど、カナダでもひとときユニークなケベック州。今回参加者が全員女性だったこともあり、訪問先各地で女性目線のさまざまな発見があったようだ。

【協力=エア・カナダ/ケベック州観光局】



ケベック・シティのシャトーフロントナック前、ツアー参加者全員で

モントリオール

新しさの中に歴史が息づく ケベック最大の都市

旅のゲートウェイとなるのは、モントリオール。トロントに次ぐカナダ第2の都市で、都市圏人口は約400万人。広大なセント・ローレンス川の中にある島に広がっており、中心部には高層ビルが建ち並び、金融、運輸からゲーム、映画まで、多様な産業のオフィスや大学、商業・文化施設がひしめく。17世紀にフランス人の入植者によって開かれた街で、旧市街にはかつての街並みが残されており、新旧のコントラストを楽しめるのも魅力だ。



17世紀の面影を残す旧市街には人気レストランも集まる

ファミツアーでは、市内を一望する丘、モンロワイヤル公園や生鮮品が並ぶジャンタロン市場、旧市街、さらには総距離35kmにも及ぶという地下街などを散策。またノートルダム大聖堂内部で行われる光のショー「AURA Experience」や、モントリオールを本拠地とするサーカス集団シルクドソレイユの注目作「ECHO」の鑑賞まで、盛りだくさんに堪能した。



ダウンタウンのビルの中に登場した新オブジェ「the Ring」



シルクドソレイユ「ECHO」のステージ。エア・カナダはオフィシャル・エアラインとしてサポートしており、会場にはVIPラウンジ(エア・カナダ・ラウンジ)も設置

ローレンシャン

新アトラクションも登場! 通年楽しめる高原リゾート

モントリオールの北、広大な森の中に大小の湖が点在する自然地帯がローレンシャン地方。秋の紅葉が有名だが、サンソヴェール、モントランブランなど、スキーリゾートも点在しており、冬にも多くの人々が訪れる。また、夏もゴンドラなどを利用したアクティビティがあり、高原リゾートしても人気だ。モントリオールから車で1~2時間とアクセスも良く、街とリゾートを併せた旅の滞在地としても注目したい。

新しくできた施設「サンティエー・デ・シム(サミットへの小径)」を訪れた。森の中に延びる1.3kmの高架ボードウォーク上で、のんびりと「ツリートップウォーク」を満喫。さらにその先には木製タワーがあり、12階分のらせん状のボードウォークを上っていくと、高さ40mの展望スポットへと出られる。360度ローレンシャンの森のパノラマが広がり、大歓声があがる。秋の美しさも想像に難くないが、夏の新緑風景も素晴らしい。今後、季節を問わず人気スポットとなりそうだ。



森の中に登場した「サンティエー・デ・シム」。トータル3kmほどの道のりながらボードウォークはスムーズで車椅子も利用可能



リゾートビレッジが整い夏も賑わうモントランブラン

ケベック・シティ

城壁の中に 古き良きフランスが残る古都

ケベック州の旅のハイライトといえるのが、州都ケベック・シティだ。1608年フランスのシャンプラン一行が入植して以来、北米におけるフランス文化圏の中心地として発展。セント・ローレンス川のほとり、城壁で囲まれた旧市街には、古い教会や家並みの中に石畳の小径がめぐり、17世紀の風景がそのままに広がる。「ケベック旧市街の歴史区」として、世界遺産にも登録され、エリア全体が史跡のようになっている。

ファミツアーでは、この旧市街を歩いて視察。象徴的に聳えるシャトーフロントナックやその前に延びるテラスデュフラン

をはじめ、ケベック発祥地の地といわれるロワイヤル広場、北米最古の繁華街プチシャンプラン通りなどを巡った。また、近年では話題の韓国ドラマ「トッケビ」のロケ地としても注目されており、その撮影スポットなどにも興味が集まった。

街郊外の景勝地モンモランシーの滝や、昔ながらの農村風景と人気のアイスクリームショップやフルーツショップ訪問などが楽しめるオルレアン島も見学。街の美しさ、全体の素材の豊かさから、数日は滞在したいという感想が多く聞かれた。



旧市街ローワータウンから眺めるシャトーフロントナック



高さ83mのモンモランシーの滝。今夏、滝に迫るフローティングブリッジが登場予定

シュガーシャックでケベックの伝統に触れる



2代目のステファン・フォーシェ氏



ブティックには様々なメープルシロップ製品が並ぶ

メープルシロップの一大産地でもあるケベック州には、多くのメープルシロップ農家「シュガーシャック」がある。何代もかけてメープルの森を守りながら、丁寧にシロップを作り続けている農家がほとんどで、ケベック州の伝統産業のひとつとなっている。

なかには、旅行者向けアトラクションを提供しているところもあり、例えば、モントリオールの西、車で1時間ほどのところにある「Sucrerie de la Montagne(森の砂糖小屋)」などは人気だ。樹齢100年のメープルの森の中、創業者のフォーシェ親子やスタッフが施設を案内し、シロップの製造過程などを説明。山小屋風の食堂で音楽を聞きながら伝統料理を堪能することも可能だ。ギフトショップもあり、ファミツアー一行も、ここでかなりのお土産を揃えたようだ。

秋以外のケベック州販売促進に期待

エア・カナダ 日本支社長 伊藤正彰氏

当社は今年の夏期スケジュールで2019年比8.3%増の座席量を日本ーカナダ間で供給しています。成田と関西からのバンクーバー便、羽田と成田からのトロント便、そして成田ーモントリオール便の最大週32便の運航ですが、成田ーモントリオール便が成功への鍵となると考えています。同便は当社にとって、アジアから唯一のモントリオール直行便で、現在は毎日運航しています。また冬季には、成田ーモントリオール便は週4便の運航となりますが、大型機材(ボーイング777型機)の導入により、2019年を大幅に上回る座席の供給量となります。

今回の研修は、美しい夏のケベック州を参加者の皆さまに実際に感じて頂くことで、同州への旅行商品の増加・販売に繋げて行きたいと考え企画しました。ケベック州モントリオールと言えばその美しい紅葉が有名で、日本人観光客のほとんどは秋に訪れていますが、四季を通しての知名度の向上と販売促進が必要と考えています。

爽やかな夏の旅をはじめ、冬はモントランブランなどへのスキーツアーもラインナップに入れていただきたい。また、企業の社員旅行や褒賞旅行、MICEもターゲットとしています。アメリカやカナダ国内の他の州とも異なる文化、そして食事。個人旅行と団体旅行のどちらにも対応できるケベック州の魅力、今回の旅で、実際に見て、感じて頂けたのではないかと考えています。



ファミツアーの参加者とともにモントリオールにて(後列中央が伊藤氏)



エア・カナダ シグネチャークラス

エア・カナダがお届けする、磨き抜かれた最上のおもてなし。
日本からバンクーバー、トロント、モントリオールまで
快適な空の旅をお楽しみいただけるほか、
カナダ国内線、アメリカ線へのお乗り継ぎも大変便利です。

エア・カナダ シグネチャークラスでは、厳選されたお食事・お飲み物、
アメニティキット、優先チェックイン、保安検査の専用レーン、
優先搭乗のご案内、手荷物の優先お取り扱いなど、
上質なサービスとアメニティをご用意しています。

シグネチャークラスの特長:

- 全長203.2 cmのフルフラットベッドになる
エグゼクティブポッド
- お好みに応じて自由に調整できる
空気圧式ヘッドレスト&クッション
- 最新のエンターテインメントシステム:
18インチのタッチスクリーン型パーソナルモニター
タッチスクリーン型ハンドセット
ノイズキャンセリングヘッドホン
- ランバーサポート&マッサージ機能
- コットン100%のコンフォーター

詳細は aircanada.com をご覧ください



「今こそ海外!」特集 | グアム政府観光局 (GVB)

グアム、台風被害から完全復活 夏休み前に観光客受入体制整う

グアム政府観光局(GVB)は夏の本格的な観光シーズンの到来を前に日本のメディア関係者をグアムに招き視察ツアーを実施した。グアムは5月に発生した台風「マーワー(台風2号)」で多大な被害を受けたが、観光施設などが着実に回復しており、今回のツアーを通じて現地の最新状況を発信した。



リバレーションデー関連行事もほぼ予定通り実施 現地は大いに盛り上がりを見せる

今回の視察ツアーはグアムの祝日「リバレーションデー(グアム解放記念日)」にあわせて行われたものだ。リバレーションデーは1944年に旧日本軍による統治から再び米領として復帰した日である7月21日を記念して制定された祝日。グアムでは毎年リバレーションデーを祝う各種イベントを実施。アガニア地区ではグアムの企業や団体がユニークな装飾を施した山車によるパレードが開催されるなど大きな盛り上がりを見せる1日となっている。

今年のリバレーションデーは残念ながらパレードは中止となったものの、ミサやメモリアルセレモニー、そしてチャモロビレッジでのブロックパーティーはこれまでと同様に行われ、グアム各村からのブース出展やフードトラック、花火やドローンショーが行われるなど、多くの地元住民が楽しむ姿が見られた。

また、日本からチャモロダンスのチームを招聘。子どものメンバーを含めた13人の日本人ダンサーとグアムのチャモロダンスミュージシャンによるステージも披露された。



リバレーションデーのクライマックスでは打ち上げ花火が夜空を飾った



日本人によるチャモロダンスのステージ

GVBグティエレス局長、観光復活を強力にアピール 今後1年半~2年で過去最高の観光客数実現へ

リバレーションデーのイベント会場ではGVBのカール・T・C・グティエレス局長兼CEOがメディア各社とのインタビューに応じた。グティエレス局長兼CEOは「グアムの観光は新型コロナウイルスの影響、そして島を襲った台風被害と長い期間にわたる多くの困難を味わった。しかしそうした困難な状況から強く立ち上がり、いまここに完全に復帰したと言える。今日のリバレーションデーは『グアム解放79周年』と同時に『台風からの復興』という2点を祝う大きな意味を持つ。今日を機に今後は多くの観光客を受け入れていきたい」と述べ、グアム観光の復活を強力にアピールした。

またグティエレス局長は今後のグアム旅行市場について「コロナ前の2019年には、

拡大が大きな要因だった。また現在日本でもチェジュ航空(JJA)によるチャーターフライトが大変人気がある。もし日本からLCCの定期便就航が実現すれば、日本市場は3倍以上にビジネスが拡大すると確信している」と述べ、路線拡大に向けた強い意欲を示した。

航空ネットワークの拡充とあわせてグティエレス局長は「1967年5月31日、109人の日本人観光客がグアムを訪れたのがグアムの観光産業の始まりである。それから55年以上にわたってグアムを訪れてきた日本人たちは、島の美しさ、人々の親しみやすさ、そして文化が好きだと話し、グアムを愛してくれた。しかし今はそれが失われつつあるという現実を受け止めなくてはならない」と述べるとともに「グアム政府観光局ではいまこそ原点回帰し、グアムにまた来たいと思わせる文化やホスピタリティを伝えていき、そして次の新しいマーケットを創造していきたい」と述べ、日本人旅行者受け入れに向けた今後の方向性について示した。

グティエレス局長とともに取材に応じたネイティーン・Y・レオンゲロ グローバルマーケティングディレクターは「新型コロナウイルス、台風と大きな困難があったが、ここで改めて準備が整ったことを日本の旅行業界に伝えることが日本市場復活のために最も重要なステップだ」と強調した。そして次の段階として、日本各地で一般消費者向けとの各種コミュニケーションを図っていく」とした。

また日本マーケットの現状については「旅行会社や航空会社からは予約状況が好調に推移している。特にJALの航空便についてはこの夏の座席はすべて埋まっていると聞いている。今後は訪れた旅行者による口コミを通じて日本マーケットの回復に向けた大きな流れになることを期待している」と語った。



GVBのカール・T・C・グティエレス局長兼CEO(左)、ネイティーン・Y・レオンゲロ グローバルマーケティングディレクター(右)

過去最高となる160万人の観光客を受け入れてきた。来年には100万人、そして今後1年半から2年後には、過去最高水準レベルを記録することができるだろう」と今後の見通しを示した。

このうち日本市場に関しては、具体的な航空施策について言及。「現在日本-グアム間の航空路線はレガシーキャリアであるユナイテッド航空(UAL)や日本航空(JAL)が就航しているが、GVBではローコストキャリア(LCC)の就航を目指すべく複数の企業との交渉を重ねている」ことを明らかにした。

グティエレス局長は「かつて日本はグアムにとって最大のマーケットだったが、韓国が日本を追い抜いたのはLCCによる路線

各地の観光施設も準備万端 団体需要も明るい見通し

タモン地区をはじめ主要観光エリアは台風の襲来を感じさせることのない景色が広がる。車を走らせると台風によって飛んでしまったヤシの木の葉が、まだ若干小さいかなとは思われるものの、この2か月で木々は青さを、花は新たな生命を取り戻し美しく咲き誇り、常夏の島グアムらしい自然の様子を垣間見ることができる。

グアム島内の観光関連企業についても夏休みの旅行需要を受け入れるための準備は整っている。今回取材したホテルでは、予約が好調で高い客室稼働率となる見通しを示したのを始め、これまで営業時間を短縮していたショッピング施設やレストランでも、コロナ前の通常営業の時間に戻す動きが見られている。

また日本市場からの人気が高いホテルでは団体、修学旅行についてもすでに多くの



タモン地区の現在の様子

問い合わせが入っており、このあとのさらなるブッキングが期待されるという。

島の電力復旧率は97.1%(7月9日現在)と、地元住民への台風の影響はまだ若干残るものの、観光への影響はほぼなく、旅行者を安心して送客できる体制が整ったという問題ないといえるだろう。

新規の観光施設やアトラクションも これまでとは違った魅力を体感

新型コロナウイルスにより観光客の受け入れがストップしていた期間でも、各企業で施設の改装やリニューアルなどが進み、新たなグアムの魅力が加わりつつある。

「クラウンプラザリゾートグアム」は、かつてのフィエスタリゾートグアムが全面リニューアルし、グアムの初のIHGホテルズ&リゾーツのホテルが誕生した。インフィニティープールやキッズ向けプールなど新たな施設も誕生している。また「ホテルタノグアム」はかつて「ホリデイプラザホテル」が生まれ変わり現在はソフトオープン。今年末にグランドオープンを迎える。



グアムの初のIHGホテルズ「クラウンプラザリゾートグアム」



今年末にグランドオープニングとなる「ホテルタノグアム」

アトラクションでは、サンドキャッスルが新しいショー「KARERA(カレラ)」を6月に満を持してスタート。総工費1200万ドル(約16億8千万)をかけて大々的にリノベーションを実施。最新テクノロジーを搭載したシアターで、ダイナミックなショーを展開する。

また併設するクラブ「グローブ」は「ZOH」としてリニューアルオープン。さらに、隣接するレストラン「ANEMOS(アニモス)」では地中海料理を提供。タモンの中心に最新スポットが登場している。



サンドキャッスルの新しいショー「KARERA(カレラ)」



タモン地区中心に誕生した地中海料理レストラン「ANEMOS(アニモス)」

さらにデュシタニグアムリゾート、デュシットビーチリゾートグアムに隣接するショッピングセンター「ザ・プラザショッピングセンター」がデュシットインターナショナルの運営となり、「デュシットプレイス」に。ジバンシイをはじめとするハイクラスのブランドや、クロエ、ラコステ、ラブ&クレープスなど新規店舗のオープンや、アンダーウォーターワールドのリノベーション計画など、今後も施設全体のグレードアップを図る計画だ。

このほか、PICグアム内のパシフィックパビリオンで公演中の「スーパーアメリカンサーカス」は、オープンして1年が経過。観客の目の前で繰り広げられるショーは迫力あるアクロバットとユーモアのあるピエロのショーなど、観客を虜にさせる興奮のショーを展開する。



PICグアム内の「スーパーアメリカンサーカス」はオープン1周年

GVB、夏休みの需要喚起策 GOGO! GUAM PAY (電子クーポン) 配布スタート

グアム政府観光局は夏休みの旅行需要の喚起策として「GoGo! GUAM SUMMER キャンペーン」を実施している。これは、グアム-日本間の直行便就航55周年だった昨年実施した「GoGo! GUAM キャンペーン」を踏襲する形で5月8日~9月30日にかけて実施しているもので、レストランやホテル、アクティビティスポットなどで特別なサービスやお得な特典が受けられるもの。

さらに、8月1日~9月30日は夏休みの需要喚起策として、指定の旅行会社を通じてグアム旅行を申し込んだ人の中から限定5000人にグアム現地で利用できる20ドルクーポンを付与する施策を実施する。クーポンは日本国内旅行の需要喚起策「全国旅行支援」で電子クーポンとして利用された「Region Pay」を海外市場で初めて導入した点も注目ポイントとなっている。



<https://gogoguam.jp/coupon/>

「今こそ海外!」特集 | フィジー政府観光局

珊瑚礁の海に囲まれて、思い思いの滞在を満喫 南太平洋の楽園 フィジーのビーチリゾートへ

南太平洋に浮かぶ、大小333の島々からなるフィジー。透き通るように美しい海、青い珊瑚礁、まぶしいほどに白いビーチ、そして鬱蒼とした緑に覆われた熱帯の森。トロピカルゾーンの豊かな自然の中、のんびりと心豊かな人々が暮らすこの地は、「ハピネスの島」と言われるほど、穏やかで心地良い空気に満ちている。絶景、文化、そして人とのふれあいなど、+αの満足度が得られる、理想的なマリナーリゾートだ。



Photo: Toberua Island Resort

今フィジーに行くべき5つの理由

1. リゾートの選択肢が豊富

本島のビチレブ島はもちろん、小さな離島にまで宿泊施設が整っている。国際ブランドのホテルをはじめ、低予算で泊まれるロッジ、さらには大自然の中の隠れ家的リゾートまで、タイプは実に豊富。ハネムーンから、ファミリー、学生旅行、シニア旅行まで、あらゆる層の旅に対応している。



ファミリーからカップルまで、思いのままのリゾートステイを (Photo: Fraser Clements)

2. 充実したアクティビティ

各種マリンスポーツをはじめ、ゴルフ、ハイキング、クルーズ、文化体験など、様々なアクティビティがハイレベルな内容で体験可能。

3. 明るくハッピーなフィジアンとのふれ合い



飛び切り陽気なフィジアン (Photo: Grant Triplow)

この地の、のんびりとしてハッピーな空気感を作り出しているのは、底抜けに明るいフィジアンたち。魔法のような挨拶「Bula!」の一言で誰でも笑顔で仲良しになれるのが魅力。

4. 直行便でアクセス、しかも運賃はオトク!

2023年4月にフィジーエアウェイズが成田-ナンディ間の運航を再開し、直行便でフィジーへのアクセスが可能になった。同社のフライトには燃油サーチャージが不要で、しかもかなりフレキシブルな料金体制を採用。しばしばキャンペーンも展開し魅力的な運賃もでている。

5. 万全の受け入れ体制

フィジーでは、コロナ対策としての入国規制をかなり早い段階から解除してきており、すでにオーストラリアやニュージーランド、アメリカからの旅行者人数は以前同様の水準まで回復している。ホテルやレストラン、アトラクションなども完全に平常モードとなっており、旅行者はストレスなく楽しむことができる。

日程・テーマに応じて選びたい、フィジーのリゾートエリア

デナラウ Denarau

ホテルもアクティビティも選択肢豊富

フィジーでも最も華やかな場所がデナラウエリア。空の玄関口となるナンディから車で20分ほどでアクセスでき、ゴルフ場を中心に、海岸線沿いに国際ブランドの大型リゾートホテルやレストラン、ショッピングセンターが並んでいる。ナンディのダウンタウンでのマーケット巡りや「フィジー・カルチャー・ビレッジ」での文化体験、「スリーピン



レストランも充実 (Photo: Chris McLennan)

グ・ジャイアント・ジップライン」といったアトラクションも豊富だ。また、デナラウ・マリーナからは、定期運航の高速船をはじめ、「キャプテン・クック・クルーズ」など各社により、ママヌザ諸島などへのクルーズツアーが種類豊富に出ており、マリナーアクティビティと合わせて楽しむことができる。若者には、洋上に浮かぶバー「クラウド9」へのツアーも人気が高い。さらに「シーフィジー」などのウォータータクシーを利用して、自由なアイランドホッピングも可能。旅行日数に合わせて、離島とデナラウを組み合わせるスタイルがおすすめだ。



セイリングポートでの1日ツアーも (Photo: Captain Cook Cruise)



洋上バー「Cloud 9」。電気は太陽光発電でまかない、サンゴの植え付けやロブスター、カキの養殖など、エコな活動も実施 (Photo: Brook Sabin)

コーラル・コースト Coral Coast

珊瑚礁の美しい海と多彩なフィジー体験

ビチレブ島の南岸、その名の通り美しいサンゴ礁の海に面して、ラクジュアリーホテルがゆったりと建ち並ぶ、優雅なリゾートエリア。フィジー初の国立公園となった



珊瑚礁を望むゴルフコース (Photo: Andrew Lewthwaite)

シンガトカ大砂丘をはじめ豊かな自然に囲まれており、ジェットボートでのリパークルーズでは、小さな村でカバの儀式を行うなど、ユニークな伝統文化の体験もできる。ナンディ空港からは40分~2時間とアクセスも良い。一帯には気軽に泊まれるタイプのホテルも点在している。



シンガトカ川のジェットボート (Photo: Sigatoka River Safari)

パシフィック・ハーバー Pacific Harbour

世界的に有名なシャークダイビング・スポット



コーラルコーストの東側に続くのが、ダイビングパラダイスとして世界的に知られるパシフィック・ハーバー。沖合にあるベンガ島のサンゴ礁周辺で、たくさんの巨大なサメをみることができ、ダイビングには、アクティビティが充実した「ザ・パール・リゾート スパ&ゴルフコース」をはじめ、高級ホテルからエコノミータイプまで、様々な宿泊施設が揃っている。サメをはじめ様々なトロピカルフィッシュに出会える (Photo: Joost Glasser)



Photo: Andrew Lewthwaite



ママヌザ諸島&ヤサワ諸島 Mamanuca Islands & Yasawa Islands

日常を忘れて離島滞在を満喫するならここ

ビチレブ島の西の沖合に浮かぶ、約20の島々からなるママヌザ諸島。デナラウ・マリーナからボートで30分から1時間15分と大変近いにも関わらず、驚くほど透明な海と白砂のビーチという離島ならではの美しさに出会える場所だ。1島1リゾートで女子旅にも最適な「マタマノア・アイランド・リゾート」、フィジー語で「愛」の意を持ち、カップルにぴったりの「ロマン・アイランド・リゾート」、マリンスポーツが充実しファミリーにも適した



思い思いのスタイルで離島を満喫 (Photo: Andrew Lewthwaite)

「プランテーション・アイランド・リゾート」など、多くの島に個性豊かなリゾートホテルが点在。また、デナラウから半日または日帰りで気軽に出かけられる島も豊富だ。そして、ママヌザ諸島のさらに北に延びる島々はヤサワ諸島。映画「青い珊瑚礁」の舞台ともなった場所で、海はさらに美しく、雄大な自然も溢れ、秘境感は抜群。ナンディからは定期船や各種クルーズをはじめ、小型飛行機やヘリコプターでアクセスが可能。



トロピカルオーシャンの真ただ中に滞在 (Photo: Castaway Island Resort)

バナアレブ島 & タベウニ島 Vanua Levu Island & Taveuni Island

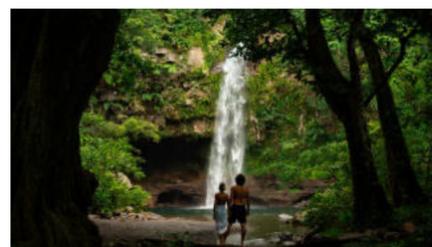
熱帯の美しい海とワイルドな自然を全身で体験

ビチレブ島の北東にあるバナアレブ島は、フィジーで2番目に大きな島。内部は手つかずの自然に覆われており、また北岸の沖合には、長さ200kmもの珊瑚礁「グレート・シー・リーフ」が島を縁取るように続く。ウミガメなど希少な海洋動物とともにダイビングができる場所として知られている。さらに、その南東に浮かぶタベウニ島



静かな環境の中、エコロジカルなリゾートが多いバナアレブ島 (Photo: Film Fiji)

もダイナミックな自然に出会える場所だ。エメラルド色の海にかこまれ、熱帯の美しい植物観察や野生動物観察などワイルドな体験も可能。いずれの島も、隠れ家的な高級リゾートから、エコノミータイプのロッジまで、宿泊の選択肢は豊富。バナアレブ島には海洋学者J.M.クストー氏が手掛けたエコロジカルなリゾートもある。



豊かな自然に満ちたタベウニ島のボウマの滝 (Photo: Elliot Grafton)



フィジー政府観光局日本事務所
www.fiji.com.fj

「今こそ海外!」特集 | フィジーエアウェイズ



成田ーナンディ線再開で 楽園フィジーへの旅が もっと快適に、さらに身近に!

フィジーに 今行こう!

フィジーエアウェイズ(FJI)は、2023年4月4日より、成田ーナンディ線の運航を再開し、現在週2便の運航を行っている。直行便就航により、トロピカルリゾート、フィジーへの関心が改めて高まる中、リーズナブルでフレキシブルな運賃体系や、独自の顧客サービスなどにより、さらなる旅客誘致を目指す同社の取り組みをご紹介します。

Flight Schedule

運航は火・金曜の週2便

成田ーナンディ線は、現在週2便を運航。約9時間のフライトで日本とフィジーを結んでいる。旅行者にとって時間的に余裕のあるスケジュールで、成田発が夜のため、

関東在住者であれば、通常モードで仕事を終えた後に空港に向かうことが可能。また地方からも、当日余裕をもって乗り継ぎができる時間帯だ。

成田ーナンディ線 フライトスケジュール

	運航日	便名	フライトスケジュール
成田 → ナンディ線	火・金曜	FJ350	21:25 成田発 → 09:05+1 ナンディ着
ナンディ → 成田線	火・金曜	FJ351	13:25 ナンディ発 → 19:30 成田着

Business Class

深夜フライトも快適なゆとりあるシート

使用機材はA330-200で、ビジネスクラス24席、エコノミークラス250席の計274席。ビジネスクラスは2-2-2の配列で、座席のピッチ60インチ、幅21インチと余裕のサイズ。パーソナルエンターテインメントスクリーンをはじめ、USBポート、ゆとりある収納スペースを備え、快適な角度で休めるレザーアングルライフラットシートを採用。プレミアムな寝具や人気ブランド「ピュアフィジー」のバスアメニティなど、深夜便を快適に過せる



サービスが整っている。優先的なチェックインや搭乗など、各種プライオリティサービスも充実している。

Economy Class

隣席を購入できる「マイバブルシート」オプションも



エコノミークラスは、2-4-2の配列で、座席ピッチは31-32インチ。パーソナルモニター、USBポートが利用でき、エンターテインメントプログラムはオンデマンドで利用可能。また隣席を購入し、より広いパーソナルスペースを確保できる「マイバブルシート」もオンラインで提供している(出発72時間~4時間前まで利用可能)。

Airfare

燃油サーチャージ無料+フレキシブルな運賃体系

フィジーエアウェイズの運賃で注目すべきは、燃油サーチャージを設定していない点だ。これは、多くの旅行会社から驚かれるというほどに画期的な試みだ。しかも、独自の「フライアウェイ」という運賃体系を採用しており、手荷物の受け入れや予約変更の可否など、サービス内容に応じてビ

ジネスクラスで2段階、エコノミークラスで4段階の料金を設定。エコノミークラスの「ライト」の場合、往復91,000円~と、かなりリーズナブル。できるだけ費用を抑えたい旅行者にとって注目のサービスとなっている。

Resort Check-in

ナンディのリゾートホテルで帰国便のチェックインが可能



ユニークなサービスとして好評を得ているのが、ナンディのホテルでの「リゾートチェックイン」だ。これは、帰国日に滞在ホテルの専用カウンターで、フライトのチェックインを受付けるサービス。荷物も預けられるので、身軽に、急がず空港へ行き、カウンターに並ぶ事無くそのまま出国手続きに直行できるというもの。現在、主要な6カ所のホテルで対応しており、リゾートでの出発日も、ゆとりを持って楽しめるのが好評だ。

NEWS

2023年度オーストラリア/南太平洋地区 ベストエアライン受賞

6月21日、フィジーエアウェイズは、スカイトラックスの2023年「ワールドエアラインアワード」において、オーストラリア/太平洋地区のベストエアラインとして表彰された。同社は昨年度と同ランキング3位から1位へと躍進。また「ワールドトップ100」のランキングでも、昨年度の36位から15位へと、一気に評価を高めた。



フィジーエアウェイズのCEO、アンドレ・ヴィルジョエン氏は受賞をうけ、「今回の受賞は、フィジーエアウェイズの質の高いサービス提供への揺るぎない取り組みの結果である。我々は、フィジーのホスピタリティと心遣いの精神を受け継

いでおり、ナショナルエアラインとして、すべての行動にこの価値観を反映し、支持している。これが私たちを航空会社として際立たせているのだと思う」とコメントしている。

「今こそ海外!」特集 | 香港政府観光局

香港は日本からの旅行者を万全な体制で歓迎 コロナ禍にオープンした新観光素材に注目!



新型コロナウイルスの影響で長きにわたって渡航制限が続いた香港。しかし、それらの制限も今年4月に入ってすべて撤廃され、コロナ禍前と同じ手続きで入境可能な状況となっている。航空便についてもコロナ前の85%程度まで回復。さらに新規路線も就航するなどアクセス面でも日本からの旅行者を受け入れる環境が整ってきている。また、コロナ禍の間は旅行者の往来はストップしてしまったものの、観光施設の開発はとどまることなく進められており、この3年余りで新たな注目スポットが次々と登場している。新たな魅力が追加された香港に「今こそ」訪れてみるのはいかがだろうか。

観光施設のリニューアルや注目の施設が続々と

セントラルマーケット

香港の古い建築物を再利用した商業施設「セントラルマーケット(中環街市)」が2021年にオープンした。1万2000平方メートルのスペースに香港らしい雑貨や食品を扱う約90弱のショップが軒を連ねる。



セントラルマーケット

ピークトラム

香港の定番観光スポットの1つであるビクトリア・ピーク。ここまでのアクセスを担う「ピークトラム」の車両が2022年8月に一新。第6世代となった新車両は乗客定員が従来の120人から210人に増加。ビクトリア・ピークまでのアクセスがより快適なものとなった。



ピークトラム

オーシャンパーク ウォーターワールド

香港の人気テーマパークの1つであるオーシャンパーク(香港海洋公園)の隣には2021年9月に「ウォーターワールド」がオープン。全天候型、通年営業となっており、波の出るプールやウォータースライダーなど5つのエリアに27の屋内外アトラクションが設置されている。



オーシャンパークの隣にオープンしたウォーターワールド



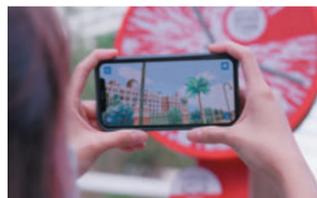
ゴンピン360の「クリスタル+」

ゴンピン360の「クリスタル+ (プラス)」

ケーブルカー「ゴンピン360」に側面と床が全て強化ガラス張りの「クリスタル+」が2022年12月に登場。全108個のキャビンのうち7つがこのタイプとなっている。

シティーinタイム(城市景昔)

香港市内の景色を楽しむ新たなコンテンツとして2021年に登場したのがAR(拡張現実)技術を使った「シティーinタイム」。香港市内28カ所で無料アプリを使用すると、昔の街並みのイラストや写真が360度のパノラマでスマートフォン上に登場。これを背景にした写真を撮影することも可能だ。



シティーinタイム(城市景昔)

香港ディズニーランドも注目のイベントや施設が登場

キャッスル・オブ・マジカル・ドリーム

香港観光を彩るスポットの1つが香港ディズニーランドだ。コロナ禍の間に香港ディズニーランドも変貌を遂げている。

2020年11月には壮大なお城「キャッスル・オブ・マジカル・ドリーム」がオープン。2021年6月からはデイトタイムに城をバックに繰り広げられるミュージカル・ステージ・ショー「フォロー・ユア・ドリーム」もスタートしている。



キャッスル・オブ・マジカル・ドリーム

ナイトタイム・スペクタキュラー「モーメンタス」

香港ディズニーランドの夜を彩る新たなイベントとして2022年6月からスタートしたのがナイトタイム・スペクタキュラーの「モーメンタス」だ。ショーでは、ウォータープロジェクトや音楽とシンクロする噴水、レーザー光線や花火といったさまざまな技術を駆使し、約40シーンのディズニー映画名場面やディズニーとピクサーの人気キャラクターが登場する。



モーメンタス

日本でも高い人気を誇るディズニー映画の新テーマランドも

香港ディズニーランドは今後も注目のコンテンツが続々と登場予定となっている。中でも注目されているのが、11月にオープンする新テーマランドである「ワールド・オブ・フロズン」。これは日本でも高い人気を誇るディズニー映画「アナと雪の女王」をテーマとしたエリアとなっており、世界のディズニーリゾートの中で香港が第一番目にオープンすることになっている。

また、改装が行われていたディズニー・ハリウッド・ホテルは7月14日に営業を再開している。

香港で楽しめる芸術・文化の世界

香港故宮文化博物館

芸術・文化関連の新エリアとして開発が進む西九龍文化地区に2022年7月に開業したのが「香港故宮文化博物館」だ。約3万平方メートルの敷地に約7600平方メートルの展示スペースなどを用意。そこには北京にある故宮博物院に収蔵されている900点以上の品々が展示されている。展示品の中には、かつては一般非公開だったものもあるという。



香港故宮文化博物館

ヴィジュアル・カルチャー美術館「M+(エムプラス)」

香港故宮文化博物館とともに西九龍文化地区のランドマークとなっているのが現代アートを紹介する美術館である「M+」だ。館内には33のギャラリーや展示スペースがあり、ビジュアルアートやデザイン、建築、動画などを網羅した数々の展示物が用意されている。



M+ (エムプラス)

ブルース・リー展「平凡・不平凡-李小龍」

香港文化博物館では2021年11月28日から5年間の期間限定でブルース・リー展「平凡・不平凡-李小龍」が開催されている。米国のブルース・リー財団との共催で、映画の衣装やポスター、私物を始め約400点の品々が揃い、国際的に有名なアクションスターの伝説に触れることができる。入場料は無料となっている。

ブルース・リー展
©Hong Kong Heritage Museum

香港が誇る食の魅力は健在

香港観光を語る上で欠かすことができないのはやはり「食」だろう。久々の香港旅行で楽しみたい食関連の最新事情を紹介するコンテンツが相次いで発表されている。

4月には「ミシュランガイド香港・マカオ2023」が出版された。香港からは7軒のレストランが3つ星を獲得したのを始め、2つ星レストラン13軒、1つ星レストラン58軒が選出されている。また、リーズナブルなレストランを紹介する「ビブグルマン」には65店舗、持続可能な活動に力を入れているレストランを紹介する「グリーンスター」には3軒が選ばれている。



ミシュランガイドの2023年版が発表

また、香港政府観光局は今年3月に香港在住者3万人による「香港の最強お勧めリスト」を決定。こだわりグルメトップ5として「点心」「香港式ミルクティー」「エッグタルト」「エッグワッフル」「ワンタンメン」を選んだ。



香港の最新情報は「香港パートナーネット」から

香港政府観光局は旅行業界専用サイト「香港パートナーネット」を用意している。登録すると香港旅行商品の企画・販売に役立つさまざまなサービスが受けられる。費用は一切かからない。

香港パートナーネットの登録はこちらから

=登録するとこんなメリットが! =

- ◆メルマガで月2回香港の最新情報が届く。
- ◆サイト上でイメージ画像のダウンロードができ、旅行会社のツアーパンフレットやウェブサイト、SNS、広告、団体企画書などに自由にご利用可能。
- ◆香港政府観光局が発行する印刷物の閲覧やPDF版のダウンロードができる。
- ◆渡航者データなど、各種統計も閲覧可能。
- ◆イベント・宴会場の検索エンジンが利用可能。
- ◆現地旅行会社、ホテルなどからの有益な情報も紹介

https://partnet.hkta.com/japan/jp/my_partnet/index.html

「今こそ海外!」特集 | タイ国政府観光庁



今こそ、タイへ～新しい旅への誘い～

THAILAND REPORT

2023.Vol.77

動き出したタイ観光の盛り上がりをさらに加速へ ～見本市、セミナー、キャンペーンも続々とリアル実施～

タイは世界の中でもいち早く国際観光の復活に向けて動いてきた国のひとつ。2021年夏には一部観光地でサンドボックス制度を開始し外国人観光客の隔離検疫なしでの受け入れも始めていた。先進的な取り組みを続けてきたタイ観光の盛り上がりは、世界中で観光再開の機運が高まるなかで、さらに加速している。



タイ観光のキックオフを大々的に世界発信したTTM+2023

世界的に観光需要の回復傾向が鮮明になる中で開催されたタイ最大の旅行見本市「TTM+2023」は、世界に先んじて観光再開に向けた諸準備を進めてきたタイ観光の大復活を予感させるものになった。TTM+の主催者であるタイ国政府観光庁(TAT)によれば、3日間にわたってバンコクで開催された同イベントでは期間中に目標の1万件を上回る1万2670件もの商談が交わされ、参加者の商談満足度も74.1%と予想を上回った。この結果、TTM+の開催はタイの観光産業に34億バーツ(約140億円)のビジネス収益をもたらし、タイ訪問客数を7万人以上押し上げる成果があったとTATは見積もっている。TTM+の開催成功は、商談成立による

直接的な効果を生んだだけではない。TTM+に参加した世界中の観光のプロに対してタイの観光客受け入れの現状と、リアルタイムのタイの魅力強く印象付けたことは、今後のタイ観光の回復をより加速していく上で間接的な効果を発揮し続けていくことになるはずだ。TTM+には昨年より7割近く多い374人もの海外バイヤーが世界50カ国から集結し、110社のメディアも参加した。彼らが持ち帰ったタイの最新情報はポジティブな内容だったと考えられる。というのもコロナ渦中もバンコクではインフラや観光施設の拡充が進み、TTM+参加者はコロナ禍前よりもさらに快適さと楽しさを増したバンコクを体験できたと考えられるからだ。日本人観光客にも映えるスポットとして人気の寺院、ワット・パークナムには黄金に輝く高さ69mの巨大なブロンズ仏像が

完成。ナイトマーケットのジョッドフェアもオープン済みだ。両施設とも2021年の完成で、コロナ渦中にタイを訪問できなかった旅行者にとって新たな魅力となるものだ。渋滞の激しさで知られるバンコクで公共交通機関の便利さをアピールできた点も今後につながりそうだ。今回は見本市会場から式典会場のコンベンションセンターまでの移動に関し、TTM+参加者には公共交通機関のチケットが用意され、多くの参加者がBTS(スカイトレイン)やMRT(地下鉄)を乗車体験。バンコクの公共交通機関の快適さを確認したはずだ。



巨大なワット・パークナム像

また今回のTTM+はこれまで以上にタイの食の魅力のアピールにも成功した。というのもTTM+だけでなく、食に特化した展示会「アメージングタイランドカリナリシティ」を同時開催したからだ。TATが食に特化した展示会を開催するのは初めてだが、タイのガストロノミーツーリズムをアピールする舞台を用意した形だ。ミシュランの星付きレストランの有名シェフや、世界の食に精通するグルメ系の人気ユーチューバーが登場し、タイ料理の魅力を紹介。TTM+に参加した観光関係者も、タイにおけるガストロノミーツーリズムのポテンシャルについて新たな情報と刺激を得たはずだ。



日本国内でもタイ関連イベントを次々実施



TATは航空会社等と連携し、日本国内でのイベント開催や研修旅行の実施に力を入れている。7月6日にはTATとマレーシア政府観光局の共催で、旅行会社対象のタイ&マレーシアセミナーを新潟で開催。またエバー航空との共催で、東京および仙台の旅行会社を対象とする研修旅行を実施。7月9日～13日の日程でバンコクとホアヒンを訪れた。さらに今後も8月2日に日本アセアンセンター主催の「ASEAN教育旅行セミナー」に参加し、学校関係者と旅行業界に対しタイ教育旅行の魅力を発信する予定。加えて8月3日にはTATとタイ国際航空、タイランド・コンベンション&エキジビションビューロー(TCEB)、タイ日旅行業協会(TJTA)の4者合同で、旅行会社向けセミナーも開催する予定だ。

航空会社も積極的にプロモーションを展開

タイへの観光旅行需要の回復に伴い、航空会社によるタイ旅行関連のプロモーションが活発化している。とくに目立つのは第三国の経由便を利用したフライスループロモーションだ。大韓航空(KE)は日本の5都市からソウル・仁川空港へのフライトを運航しており、そこからバンコクへ向かえるだけで

なく、日本からの直行便がないチェンマイやプーケットにも乗り継ぐことができる。これら経由便の利便性を紹介するためKEは5月に、TATとの共催による旅行会社対象のバンコクとプーケットへの研修旅行「VISITTHAILANDYEAR 2023 amazing new chapter」を実施。さらには6月から旅行者向けの「タイ三都キャンペーン」もスタートしている。



また台北経由のタイ路線を運航しているエバー航空も6月に東京と仙台で旅行会社向けにタイを含む遠都市セミナーを開催した。香港経由便によりタイ旅行需要の取り込みを図るキャセイ航空は、関東圏を除く地方部の旅行会社向けにブックイングキャンペーンを展開している。



2022年に完成した新しい王宮地下道。エバー航空とのFAMツアーより

タイ観光大使のPRビデオをジップエア全フライトで放映中

タイ観光大使でシンクロナクロバットで人気の「佐藤三兄弟」が登場するパタヤの観光紹介ビデオが、ジップエア全フラ

イトの機内ビデオで放映中だ。成田/バンコク線を運航するジップエアと、佐藤三兄弟が所属するエイベックス・マネジメント、TATの3社コラボによるタイ旅行のプロモーション展開だ。



BackpackFESTA2023 in Thailandをバンコクで開催へ

学生を主体とする若者向け旅のWebメディアを運営するTABIPPOが、今年も「BackpackFESTA in Thailand」をバンコクで開催する。開催日は9月2日。現地集合・



現地解散の同フェスタでは、世界中から集まる旅人とタイ旅行の情報交換を行ったり、ゲストによるトークライブなどを楽しめるもので、毎回、日本からも多くの若者が集結。今回も250～300名の参加を見込んでいる。

イベント紹介(5月・6月)

TATは日本におけるイベントにも力を入れている。TAT主催によるものだけでなく、タイ関連イベントにも積極的に出展。タイ観光のファン作りに取り組み、観光再開の機運醸成を後押ししている。5月20日・21日にはタイ王国大使館主催の

タイフェスティバル東京が代々木で開催されTATも出展。4年ぶりのリアル開催とあって約30万人の来場者が詰めかけた。また4月～5月にかけてはタイ王国大使館とイオンモールが共催したタイフェスティバルが幕張新都心と成田で開催された。5月27日・28日には富士山麓の「ふもとっばらキャンプ場」で「FUJI THAICAMP」が



開催され、ワークショップやマッサージ体験、ロイクラトン体験などを通じてタイの文化や観光を体験できる場をTATが提供した。また仙台では6月10日・11日に仙台市と地元商工会議所青年部の共催による「タイフェスティバルイン仙台」が開催され、横浜・みなとみらいグランモール公園では6月17日・18日に「みなとみらいタイフェスティバル」(びあ主催)も開催。TATは両イベントにブース出展した。



このほか6月24日・25日に石川県で開催された北陸放送主催の「MRO旅フェスタ2023」にも出展。TATはコロナ禍の沈静化により続々と再開されるリアルイベントも活用しながらタイ観光の再開に取り組んでいる。

「地中海の楽園」スペイン・マヨルカ島 歴史文化とリゾートの魅力が融合



スペインのリゾート地として有名なマヨルカ島は、バレアレス諸島最大の島。西地中海の中でも人気の観光地のひとつで、ターコイズブルーに輝くビーチ、山岳エリアの変化に富んだ美しい自然、そして中心都市パルマには、歴史的な建造物が残り、歴史と文化の趣、そしてリゾートとしての魅力を兼ね揃えた場所だ。「地中海の楽園」とも呼ばれ、ヨーロッパ各地の作家や音楽家、画家などが好んで滞在した場所で、名立たるアーティストたちにインスピレーションを与えてきたのどかな風景が広がる。バルセロナからは飛行機で約1時間。他のヨーロッパのリゾート地と比較しても、リーズナブルに滞在が楽しめるのも魅力。新しいデスティネーションを求める旅行者におすすめのエリアだ。



ゴシック様式が美しい「マヨルカ大聖堂」

円形のフォルムが特徴の「ベルベル城」

マヨルカ島の街「パルマ」 美しい旧市街が魅力

マヨルカ島の中心都市「パルマ」。島の南側のパルマ湾沿いに位置し、年間の平均気温は17.9度、年間約300日以上が晴天と言われるほど、一年を通して気候に恵まれた場所だ。

そのパルマ湾に面したゴシック様式の建物が「マヨルカ大聖堂」だ。この大聖堂は13世紀、マヨルカ国王であるハイメ2世統治下に建設が進められたもので、荘厳なファサードの美しさは目を見張るものがある。また礼拝堂に差し込む光で輝くステンドグラスや大聖堂にある9つの鐘も必見だ。

そのハイメ2世王が、王城として建築させたのが、「ベルベル城」。丘の上に建つゴシック様式のお城で、円形のフォルムが特徴。3つの大きな塔と、4フロアからなる主塔があり、城の内部には円形の中庭パティオや礼拝堂がある。スペインの長い歴史において様々な目的で使用された後、19世紀には造幣局として利用された。

パルマで楽しむグルメとショッピング 世界でも名立たる靴づくりの伝統

質の高いレストランやバル、ショップが揃い、街歩きが楽しいパルマ。革と靴の職人街として知られ、日本でもよく知られる靴のブランド「CAMPER (カンペール)」もマヨルカ発祥のブランドだ。中世末期、マヨルカ島ではすでに靴作りの伝統があり、18世紀には、靴産業が主要な経済活動のひとつとなるほどだったという。市内にはいまでも多くの専門店が軒を構えているので、旅の思い出として滞在中に一足仕立てるのもおすすめだ。



また、手軽に楽しめるグルメが「ソブラサーダ」。良質なことで知られるマヨルカ産の豚肉を原料に作られた柔らかい熟成サラミだ。パンにこの「ソブラサーダ」をぬり、蜂蜜をかけて食べると絶品。伝統的なマヨルカ料理に不可欠な一品だ。

また、気軽に楽しめるグルメとしても熟成サラミの「ソブラサーダ」うひとつおすすめなのが、マヨルカのペストリーの王様「エンサイマーダ」。渦巻状の菓子パンで真っ白なパウダー状の粉砂糖がかけられ、サクサクとした食感が特徴。マヨルカ島のパティスリー、ベーカリー、カフェで気軽にその味を楽しむことができる。



街歩きが楽しいパルマの旧市街



ペストリーの王様「エンサイマーダ」

https://www.instagram.com/reel/CriLCZMAVs_/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MmJiY2l4NDBkZg==

マヨルカ島のホテル例

マヨルカ島には滞在スタイルや好みに応じて、さまざまなホテルが選択できる。



かつての要塞をホテルにリノベーションした「Hotel Cap Rocat」



マヨルカ島散策の拠点として利用しやすい「M House Hotel」

ターコイズブルーの美しいビーチ 世界最大級の地底湖「ドランク洞窟」



絶景ポイントの「トレン・ダ・カラ・ピ (Torrent de Cala Pi)」

パルマの街から車で数分、トレン・ダ・カラ・ピ (Torrent de Cala Pi) は、ターコイズブルーの鮮やかな海が一面に広がる絶景ポイント。陽の光が当たるとキラキラと輝き、ずっと眺めていてもその美しさに飽きることはない。このエリアはどここのビーチも入江のようになっているのが特徴で、人も少なく、プライベート感ある穴場的な場所が多い。訪れたのは4月だが、すでにこの日もビーチで泳ぐ人が見られた。

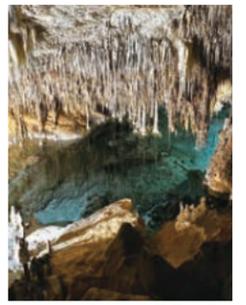
また、マヨルカ島東海岸にある大人気の観光名所「ドランク洞窟」は、約500万〜2300年前に何千年もの歳月を要した大迫力の鍾乳洞で、地底湖としては世界最大級。一見すると広々とした綺麗な公園の地下に、広大で神秘的で別世界が広がる。洞窟内では



洞窟の中ではクラシックの生演奏も

生演奏のクラシックコンサートが開催され、訪問者が席に着くとチェロやバイオリン、チェンバロによる美しい音色に包まれる。

近くには、小さな漁村「サンタニー」や「ポルト・クリスト」など、のんびりとした雰囲気を味わうこともできる。



地底湖として世界最大級の「ドランク洞窟」

https://www.instagram.com/reel/CrkqmNtrwO/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MmJiY2l4NDBkZg==

トラムンタナ山脈の村々を訪れる 「バルデモサ」と「デイヤ」



山脈の谷間に広がる「バルデモサ」や「デイヤ」の町並み

マヨルカ島の北西海岸に並行するトラムンタナ山脈は中世起源の水カシステムを備えたその特徴的な田園風景により、ユネスコの世界遺産に登録されている場所。峡谷が繋がる険しい山や肥沃な谷あいが続く景色を眺めることができる。

トラムンタナ山脈の谷間にある町「バルデモサ」は、石造りの集落が広がり、街全体の雰囲気が魅力的。家の扉や窓は植物で飾られ、数々のアーティストをとりこにした緑溢れる美しい風景が広がる。このエリアは豊富な水のおかげで、一帯は豊かな森に囲まれ、オリーブとアーモンドの木が有名で、アーモンドの木は2月頃に桜に似た花を咲かせる。

ここでは、作曲家ショパンが過ごした場所やその邸宅を訪ねることができる。また、カルトゥハ修道院は、ハイメ2世の宮殿として建てられたもので、ショパンやジョルジュ・サンドの楽譜、作品、家具、島生活に関係した書籍、さらにはピアノも収められている。

小高い丘の脇に位置する村「デイヤ」には、マヨルカの古い家並みが今も変わらぬ姿で残っており、この村も長くにわたり画家や芸術家が暮らしてきた。



ハリウッド俳優もお忍びで訪れるベルモンドホテル (Belmond la residencia)

村には、教区教会、ミラマール修道院、大公ルイス・サルバドール博物館、考古学博物館など、歴史や文化の魅力を学べ、見どころも多い。

村の近くには海岸があり、その奥まった入り江には、ハリウッド俳優もお忍びで訪れるホテル「ベルモンドホテル」や予約困難なミシュランレストラン「El Olivo」など、隠れた名店が揃う。新鮮な魚と貝を使ったマヨルカ料理のグルメを堪能しながら、ゆっくりと過ごすことができる。



歴史や文化を感じられる見どころも多い



新鮮なシーフードが楽しめるのもマヨルカ島の魅力のひとつ

https://www.instagram.com/reel/Crp_yxpsTqN/?utm_source=ig_web_copy_link&igshid=MmJiY2l4NDBkZg==

Message

マヨルカ観光局のプロモーションディレクター
Ms. Lucía Escribano
Ms. Camino González Marí



こんにちは!
マヨルカ島は、海、山、リゾート、そして歴史や文化と多彩な魅力が詰まった場所です。この美しい地中海の島「マヨルカ」にぜひいらしてみてください。日本の皆さまとお会いできることを楽しみにしております。
Arigato

「今こそ海外！」特集 | 海外・訪日旅行動向

6月の訪日外客数207万人、コロナ前72%回復 年間2000万人ペース上回る、国際線6割復便

日本政府観光局(JNTO)が発表した6月の訪日外国人旅行者数はコロナ前の2019年同月比28.0%減の207万3300人となり、コロナ禍後、初めて7割台に回復するとともに、200万人を突破した。また、1-6月の上半期累計は1071万2000人となり、半年間で1000万人の大台を超えた。

JNTOでは、台湾をはじめ東アジア地域の訪日外客数が増加した。また、米国や豪州で2019年同月比を超えて回復していることが押し上げ要因になったとしている。国際線定期便は2023年夏ダイヤ時点で、コロナ禍前の約6割まで運航便数が回復し、その後も東アジアを中心に増便・復便が続いている。

訪日外国人旅行者の1-6月上半期累計は、19年同月比35.6%減の1071万2000人で、コロナ前の64.4%まで回復した。コロナ前の63%なら2000万人に到達するが、既に上半期の時点で2000万人ペースを上回った。どこまで19年水準の3000万人に近づき注目される。

6月の出国日本人数70万人 コロナ前水準の46%回復

一方で、6月の出国日本人数は19年同月比53.8%減の70万3300人となり、前月の47%から46%に回復率は1ポイント下降したものの、40%台の回復を維持した。

今年に入ってから回復度合いをみると、2019年比で1月の30%から2月35%、3月36%、4月34%、とコロナ前の3割台が続き、5月47%、6月46%と回復した。1-6月上半期の累計は62.7%減の361万4200人まで回復した。

ゴールデンウィークの海外旅行需要、5月8日の新型コロナウイルスの5類移行が功を奏した形で、観光庁の「アウトバウンド政策パッケージ」、日本旅行業協会(JATA)の海外旅行促進プロジェクト、そして官民挙げた「今こそ海外!宣言」による海外旅行の機運醸成で、夏休み以降に回復を押し上げることができると注目される。コロナ前の50%まで回復すれば、日本人海外旅行者数は1000万人を超えるが、そのためには下半期を60%以上の回復が必要となる。

米国23万人、上半期期100万人迫る シンガポール、19年比16%増

6月の訪日外客数を市場別にみると、北中米、オーストラリアの回復が顕著になっている。回復というよりも、コロナ前の2019年水準を上回る過去最高の訪日外国人数を記録している。米国はロサンゼルス-関西が増便もあり、19年比29.2%増の22万6800人と大幅に増加し、上半期累計でも11.1%増の97万2200人と100万人に迫った。カナダもバンクーバー-関西が増便し、6月は18.1%増の3万人、メキシコは19.8%増の6800人だった。オーストラリアも13.7%増の4万2400人と好調に推移した。

東南アジアでは、シンガポールが15.5%増の5万4600人とコロナ前の水準を継続して上回り、上半期累計は18.0%増の25万2700人と2割近く伸びた。ベトナムも5月は9.8%増の3万8900人で、上半期は18.9%増の30万1000人と30万人を超えた。フィリピンも15.7%増の5万4200人だった。

タイは18.6%減の5万1300人、マレーシアは27.9%減の2万2000人、インドネシアは20.3%減の3万9300人。インドは7.5%減の1万4200人だった。

韓国・香港89%、台湾84%回復 中国24%回復も20万人超える

東アジアでは、韓国は19年比10.9%減の5万5100人で、仁川-大分の復便、仁川-新千歳、清州-関西の増便などもあり、9割近くまで回復してきた。

中国は76.3%減の20万8,500人、日本行き団体旅行・パッケージツアー商品の販売禁止措置が継続されているものの、上海-福岡の復便、上海-関西の増便、北京-羽田の増便などもあり、24%と初めて2割台の回復を示した。

台湾は15.6%減の38万9000人で、84%と8割台の回復率が上昇した。台北-成田の増便、台北-関西が増便した。

香港は10.9%減の18万6300人と89%の回復。

香港-成田、香港-中部の増便、香港-鹿児島への復便などで、9割近くの回復率となった。

イタリアとスペイン 約90%回復 英仏独80%前後、中東118%

欧州では、英国は19年比20.9%減の2万400人。ヒースロー-羽田の増便などもあり、コロナ前の79%まで回復した。フランスは17.0%減の1万7700人。パリ-羽田の増便などもあり83%まで回復。ドイツは12.7%減の1万3700人、ミュンヘン-羽田が増便、コロナ前の87%まで回復した。

イタリアは10.2%減の1万200人。コロナ前の90%まで回復した。スペイン10.9%減

の8700人と89%の回復を示した。ロシアはウクライナ侵攻による各国からの制裁等による影響が続き、日本へも19年比72.9%減の2400人と27%の回復にとどまっている。コロナ前の2割台の回復は主要市場では中国とロシアのみとなっている。北欧地域は11.0%減の1万1400人と89%の回復。

中東地域は9100人とコロナ前を17.5%上回った。昨年11月からのUAE国民への査証免除、今年3月からのサウジアラビア国民・居住者へのオンラインビザ申請、4月からのカタール国民への事前登録制に基づく査証免除措置などが、中東からの訪日外国人旅行者の増加につながっている。

JAL、レジャー需要に応じてリゾート路線増便 ハワイ線8月に5便追加、グアム線は週4便継続

日本航空(JAL)は、国際線で回復傾向のレジャー需要に応じて8月の成田-ホノルル線を合計で5往復追加増便する。これまで成田発便のJL8786便は8月の運航日が8・11・15・16日だったが、新たに3・5・7・10・26日の運航を追加した。ホノルル発のJL8785便は従来予定していた11・16日の運航に加えて3・5・7・10・26日も運航することとした。

また、成田-グアム線では、例年需要が高まる7月中旬から8月まで週4便で運航を計画していたが、これを9月以降も継続して夏季スケジュールの10月28日まで週4便運航を維持する。

JALでは新型コロナウイルス感染症が感染

症法上の5類に引き下げられたことで、リゾートへの渡航需要が高まってきたため、ホノルル線とグアム線の増便を追加決定した。特にハワイ線は海外旅行への機運醸成によって8月の予約数が5月末時点で前年同月比約1.7倍と好調に推移している。

JALは今後、ハワイ・グアムへの海外旅行を盛り上げる期間限定運賃や、マイルキャンペーンなどを予定している。とくに9・10月も8月繁忙期の運航を維持するグアム線では子ども連れの旅客を対象に、グアムで楽しめるサンングラスやハンドタオルなどが入ったJALオリジナルキッズショルダーバックや、オリジナルキッズウォッチをプレゼントする。



ホノルル・ワイキキビーチ

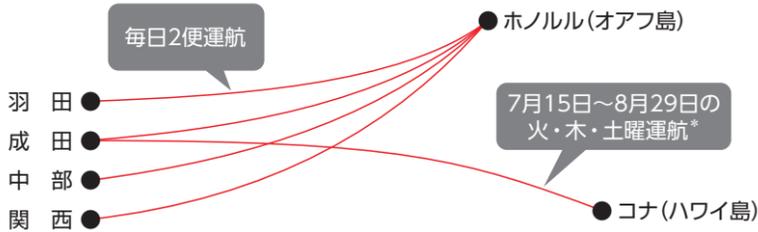
「今こそ海外！」特集 | 日本航空

羽田-ホノルル線、毎日2便運航 成田-コナ線*も運航予定



NETWORK & SCHEDULE

成田、関西、中部からホノルルへも好評運航中



※スケジュールは予告なしに変更になる場合があります。
※2023年7月24日現在の情報です。
*2023年7月15日~8月29日の火・木・土運航。ただし、コナ発は7月15日、8月29日運休。7月16日~8月30日運航。

SPORTS EVENTS

2つのスポーツイベントに協賛 JAL利用特典も



ホノルルセンチュリーライド2023
サイクリストから子供まで、
オアフの自然を全身で味わう「ファンライド」

9月24日(日)

JAL利用特典

日本-ホノルル間(往復)の自転車運搬が無料



ホノルルマラソン2023
初心者からベテランまで、誰もが参加できる
制限時間のないマラソン大会

12月10日(日)

JAL利用特典

ゴール後に使える「JALテント」を用意

JALOALO CARD

アプリ版JALOALOカードで ハワイの観光や移動が便利に

JALでは日本からハワイへ、JAL便往復の個人運賃、またはマイル利用による特典航空券の利用客を対象に、ハワイの観光や移動に便利なデジタルカード「JALOALOカード」を提供している。

※コードシェア便は対象外
※表示にはJALアプリが必要



エコノミークラス、プレミアムエコノミークラスの利用客は黄色いJALOALOカード(左)、ビジネスクラスの利用客は赤色のJALOALOカードALI'i(右)を用意。

JALOALOカードでお得に

1 観光、ショッピングに便利な Hi Bus(ハイバス)が滞在中 乗り放題!

主要ホテルとアラモアナセンターを結ぶ便利な「アラモアナルート」に加え、赤色のJALOALOカードALI'iカードなら、ダイヤモンドヘッドやKCCファーマーズマーケット(曜日限定)を巡る「ダイヤモンドヘッドルート」も乗り放題。



2 観光・空港送迎が割引/定額料金で利用可能



チャリリーズ・タクシーとロバーツ・ハワイ(送迎バス)の空港-ホテル間、ホテル-人気観光スポット間の送迎サービスをチップ込みの定額料金で利用可能。

詳しい情報は「www.jal.co.jp/hawaii/」まで